

## 1961年花シリーズ「ぼたん」の変則目打

永吉 秀夫

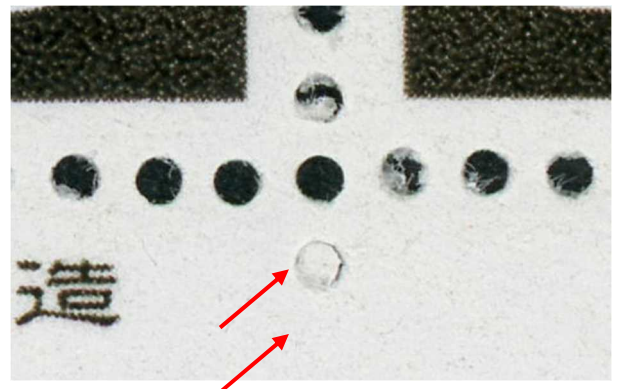
この花シリーズのうち4月発行「やまざくら」から10月発行「りんどう」までの7種には、新しく開発されその後の標準となった「連続櫛型目打」が施されています。シートで見ると下写真のように、左右の耳紙に目打穴が貫通し、上下の耳紙には「余分な目打穴」が2個ずつ開けられています。



「ぼたん」の2-1変則目打



その下耳の穴が、1列おきに1個となった2-1目打が「ぼたん」に、3個となった2-3目打が「やまざくら」と「りんどう」に存在します。ただしこの時期は目打の抜けの悪いシートが多く、一見2-1目打のように見えるシートでも、よく見ると下の写真のように2つめの穴が半開き状態となっている「ブラインドパーフ」が多いので注意が必要です。



冒頭の紹介品を拡大してみると、右写真のように、2つめの穴の痕跡は全くありません。1つめの穴もブラインドパーフになっていて、一見「2-0目打」に見える状態になっていますね。